



令和5年度 チタン研究助成 対象研究課題の公募

(一社)日本チタン協会 令和4年10月

1. 目的

チタンは、軽量かつ比強度に優れ耐食性にも優れた金属としてその需要が徐々に広がってきており、今後利活用が拡大すると著しく期待される21世紀を先導する貴重な金属です。

特に、地球環境保全やエネルギー問題が重要な課題となっている現在、優れた耐食性やリサイクル性、省エネルギーの期待に応えられる金属として高く評価されています。このように優れた特性を持つチタンをより進化させ、用途分野拡大を図ることは時代の大きな流れといえるでしょう。

チタンを拡大発展させるには、多方面からの技術研究・開発が重要となってきます。

本助成事業は、チタンの研究・開発を行う若手研究者の育成をめざすと共に、チタン利活用のさらなる可能性を広げるため、長期的展望に立ち、若手研究者の優れた技術研究・開発や、その成果を世界に発信するための活動に対して助成を行い、チタン研究・開発にブレークスルーをもたらすとともに、若手研究者の研究意欲を高めることを目的とし平成20年度に創設されました。研究者各位に於かれましては、研究の一助とされるべく奮ってご応募頂きますようご案内申し上げます。参考までに令和3年度助成対象者名を表1に、平成28～令和3年度の助成対象者・研究課題名を表2に示します。研究成果に関しては毎年チタン誌10月号（日本チタン協会機関紙）に掲載しております。過去に本研究助成を受給された方につきましては選考審査にて、その点を考慮させて頂くこともございますことをお含みおき下さい。

表1 令和4年度 チタン研究助成 助成対象者

令和4年度	上村 源	東京大学
	オズカンゴクチェカヤ	大阪大学
	渡邊 学	東京工業大学

2. 応募要領

応募ご希望の方は、別紙公募要領に沿った内容であることを確認の上、応募申請書に必要事項を記入頂き、電子メールで（一社）日本チタン協会宛てに提出下さい。

3. 募集期間

応募期間は、令和4年10月11日～同年12月6日迄とします。募集締切日以降は受付け出来ません。

4. 助成案件決定

令和5年4月中旬を予定。（メールで通知します）

5. 公募要領等入手方法

「チタン研究助成対象課題」応募要領並びに「チタン研究助成」応募申請書を（一社）日本チタン協会のホームページから入手して下さい。用紙入手困難な場合は、（一社）日本チタン協会にお問合せ下さい。

（一社）日本チタン協会ホームページ URL: <http://titan-japan.com>

6. 問合せ先及び申請書提出先

（一社）日本チタン協会 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-13（内神田TKビル）

電話 03-3295-5958 E-Mail: kimura@titan-japan.com 木村 欽一

表 2 平成 28～令和 3 年度 チタン研究助成 助成対象者と研究課題

令和 3 年度	松永 哲也	物質・材料研究機構	チタンにおける赤外線サーモグラフィを利用した疲労限度の迅速測定
	小笹 良輔	大阪大学	レーザ積層造形法による生体用チタン基ハイエントロピー合金の創製
	戸部 裕史	宇宙航空研究開発機構	チタン/セラミックス異材接合の低残留応力・高信頼性化を実現する低温液相拡散接合法の開発
令和 2 年度	盧 鑫	東北大学	溶融塩における均化/不均化シャトル反応を用いたチタンおよびチタン合金微粉末の新規製造法
	武末 翔吾	京都工芸繊維大学	チタン微粒子を用いたピーニングによる硬質膜の高速コーティング手法の開発
令和元年度	篠原 百合	東京工業大学	結晶 PDF 解析による準安定 β 型 Ti 合金の局所構造評価
	森 真奈美	仙台高等専門学校	中性子回折を用いた $\alpha + \beta$ 型チタン合金の塑性変形解析
	岡野 聡	愛媛大学	チタン合金の金属組織制御に基づく骨芽細胞挙動制御
	真中 俊明	新居浜工業高等専門学校	b 型チタン合金中の水素が力学特性におよぼす影響
平成 30 年度	李 誠鎬	大阪大学	積層造形法を用いたチタン/生体活性ガラスコンポジットによる骨形成促進新規生体材料創製
	蘆田 茉希	東京医科歯科大学	チタン合金の結晶粒微細化による高強度化
平成 29 年度	O, M i n h o	東京工業大学	液相拡散接合法による Ti 基耐熱合金の低温接合技術の開発
	松垣 あいら	大阪大学	骨配向化誘導のためのチタン表面形状制御による新規生体材料創製
	関本 英弘	岩手大学	3 価のチタンを経由するイルメナイト鉱からの高純度 TiO ₂ の製造プロセス
平成 28 年度	石本 卓也	大阪大学	金属粉末積層造形法による力学機能自在設計型チタン基合金製骨インプラントの創製
	山中 謙太	東北大学	電子ビーム積層造形によるチタンの新しい組織制御法の提案:形状・組織の同時制御に向けた基礎検討
	谷ノ内 勇樹	東京大学	塩化マグネシウム溶融塩中でのカソード分極によるチタンおよびチタン合金からの固溶酸素除去